

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	270201981		
法人名	社会福祉法人七峰会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地 (電話番号)	〒036-8255 青森県弘前市若葉2丁目15 (電話) 0172-37-1165		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 5日	評価確定日	平成 20年 1月 10日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	7人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,080円			

### (4) 利用者の概要( 10月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(内科)ナルミ医院・(歯科)小泉歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街の中にあり、商店街や病院も歩いていける距離でありとても便利な立地条件にある。また、岩木山や畑等とても美しい景色が見られる。ホームは2階建てで、1階は照明を使うなどの工夫がされ、2階は外の光が入りとても明るい雰囲気である。時間に合わせ換気等がなされており嫌な臭い等もなく過ごしやすくなっている。同じ敷地内にはデイサービスなども併設されており、そこでの交流も自然に行われていた。管理者が中心となり職員のチームワークもよく入居者、家族の意見を取り入れサービスの向上に努めているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題としての入浴について、階段の転落防止鎖についての検討課題があったが管理者、職員で話し合い、それぞれ改善されている。入浴についてはデイサービスの浴室を借りての入浴もなされており、階段には鎖ではなく新たに転倒防止のための引き戸がつけられていた。取り組みについては改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を管理者を中心となり全職員で話し合い、評価結果を受け入れ見直しとサービスの質の向上に向けて取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催されておりサービスの向上に取り組まれている。参加者は家族、町会長、市の職員、民生委員などの方が参加されている。開催後の記録も残され誰でも見れる状況になっている。今後も続けて行きより良いサービスの向上に向けての会議に期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時に入居者の日頃の様子を伝えたり、来れない家族には電話や手紙での報告がなされている。中にはFAXでのやりとりもみられていた。運営推進会議で家族へ意見を聞く場も設けており、苦情や相談への対応もなされている。職員は入居者、家族になんでも言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方との交流が図られている。町内会にも入っており町内会の行事に参加したり、ホームの行事にも参加してもらっている。今後も運営推進会議などを通してますますの交流の場を増やしていく事を期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い理念がつくられており、家族、地域との関係を大切にしたい理念である。	
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に全職員で理念の確認をしている。また、新しく来た職員にも十分な説明をし理解してもらうようにしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>				
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホームの周りは民家や店等もあり、日々の散歩などで近所の方との交流が図られている。町内会にも入っており、町内会長がホームに時々来られている。またホームの夏祭りには地域の方も参加されたり、町内の掃除や行事にもホームから参加している。ホームで行っている勉強会に地域の方を呼んでいる。認知症の普及活動にも意欲的である。	

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員で話し合い自己評価を行い、評価結果をもとに全職員で見直し、改善している。会議の記録もとられている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的開催されており、家族や町会長、市の職員や民生委員に参加を呼びかけ、地域との連帯が深められている。参加出来ない家族には、話し合いでの結果などをお知らせしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の職員とは、推進会議以外にも気軽に相談されたり相談したりと交流が図られている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修へ職員を参加させ、内部での伝達研修も行っている。また、必要時は活用できるように資料も作成し、いつでも見れるようにしている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃より全職員で虐待についての勉強会を行っている。管理者は日頃から職員の言葉使いや態度についても気をつけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に重要事項説明書などで説明し契約されている。入居前だけでなく、入居後にも家族の疑問や不安に対応し十分に説明されている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に日々の暮らしの様子を伝えたり、グループホーム便りも発行している。面会に来れない家族には電話連絡や、FAX等で入居者の様子を伝えている。また病院受診後は必ず報告している。通帳の写しと1ヵ月に使った金銭の出納と領収書もお知らせしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談窓口担当を決め、玄関に意見箱を置いている。外部の相談窓口についても玄関に貼って説明し、家族等が不満や意見を表しやすい工夫がされている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は少なく、職員が異動の際には、お別れ会を入居者と一緒に行っている。また、家族に対しても、ホームの便りに記載してお知らせし、入居者へのダメージを防いでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員が、内部での勉強会において他の職員へ伝達している。その他にも看護師を講師とした勉強会等も行われている。		職員各自に応じた段階的、計画的な学びの機会が確保できるよう、運営面での工夫に期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で他グループホームの方と情報交換や相談したりされたり、交流が図られている。また近くに何件かグループホームがありそこでの交流や施設見学もされている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心して生活できるよう、家族と話し合い解決している。入居者が他入居者と交流が図れるよう職員が仲介するなどし、配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者から、針仕事や畑作り、料理を教わったり聞いたりし、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしから会話やコミュニケーションを図り、そこでの情報を記録に残している。また家族にも報告しそれをふまえてケアプランに反映している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族から面会時などに計画について意見を頂き、計画に反映している。計画作成後にも全職員で話し合いを行っている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じ計画されている。終了時やサービスに変更が生じたときは本人、家族の話を聞き入れまた、職員で話し合い見直している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>要望など聴きながら外出支援がされている。本人、家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を継続できるようにし、日頃より家族と対応を決め、それにそって支援している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居後身体機能の状況に応じて家族と今後について話し合いがされ、また、かかりつけ医に相談している。決まったことは職員にも周知されている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>重要事項説明書で家族にも話しがされている。職員は入居者の気持ちを考えて対応や言葉遣いに気を配り、また個人情報の保護についても配慮されている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの希望を聞きいれている。その日を心地よく過ごせるように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者、職員が一緒のテーブルで食事をし、楽しく食事ができるよう支援されている。また入居者の力量に応じて準備や後片付け、テーブル拭きを行ってもらい役割ができています。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日や時間は決まっておらず入居者が希望する時に入浴できる。希望が多い日は入居者同士で譲り合い決めている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>家族からの情報をもとに入居者一人ひとりの生活歴の把握に努めている。入居者が昔からやっていた仕事をすることで本人に意欲をもたせるような支援がされている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の希望に応じ散歩や買い物などされている。また年に何回かユニットごとに花見やお食事会も行われており、今後もみんなで行けるよう計画している。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料をつくり、勉強会を行い、全職員が身体拘束について勉強している。身体拘束しないよう日常生活でも気をつけている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。外出は自由にでき、外に出るときは職員に声を掛けてもらうようにしている。また、職員は入居者の所在確認をきちんと行っている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回避難訓練を行っている。また、春には消防立会いのもと総合訓練も行われている。地域の参加も回覧でお知らせしており、町民の方も見学にいられている。推進会議にも出され、地域の方への協力が依頼されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士が作成し、栄養のバランスがとれている。水分量や摂取量も把握し、摂取量が少ない時は記録し職員で申し送りしている。また、その人にあった食事(お粥やきざみ、とろみ)を提供し支援している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について母体施設のマニュアルを使用し全職員で勉強会を行っている。入居者にも外出後に手洗いやうがいを促している。また季節によって流行が予想される疾患については勉強会がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2階は外の光も入りとても明るい雰囲気であり、1階も照明を利用するなどの工夫がされていた。時間をみて換気を行っており、匂いは気にならない。ホーム内は静かでホールにはソファがあり誰もがくつろげる場となっている。廊下やホールには入居者の写真や季節にあった飾りがされていた。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使い慣れた馴染みのタンスなどを自宅より持ってきており、本人が安心して生活出来るように配慮されている。</p>		

 は、重点項目。